

全学共通・教養科目

科目コード	13101		区分	教養			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	日本国憲法		担当者名	宮園司史、本村大輔、塩盛俊明			○		
配当年次	1	配当学期	後期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

現行の憲法制定後、我が国をめぐる環境は国内外ともに大きく変化した。このような時代の中で、我が国の政治、行政、外交等の骨格をなし、また、日々の国民生活にも直接的に影響を有する「憲法」の意義・重要性について、改めて学び直すことを通じて、これからの我が国の在り方や進むべき方向性等について、ともに考えていくこととしたい。

<授業の到達目標>

現行の憲法では、すべての公務員が憲法を尊重し、擁護する義務を定めているが、まず、その意味を十分に理解する必要がある。次に、人権および国の統治機構の項目のうち、重要なものについて、テキストを併用しながら、基礎的な知識の習得を目指すこととする。

<授業の方法>

オンデマンド方式で授業を行う。具体的には、教科書の内容に沿って、様々な設問を取り入れつつ、Q&A方式で作成した動画を教材として配信し、授業を進めることとする。また、毎回の授業に関して出題する課題への回答・提出を求める。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

毎回の授業では、課題を出題するので、一緒に添付される動画の教材を視聴した上で、課題の回答を作成し、提出すること（90分程度）。なお、毎回の課題への回答については、採点の上、返却する。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

挑戦と創造の教育を建学の精神とし、①豊かな人間性と個性、②深い専門性と実践力、③コミュニケーション能力とグローバルマインドを身に付けた人材の育成を目指して科目を配置している。当該教養科目は、全学部の学生が共通に身に付ける学習内容として本科目を位置付けている。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

①成績評価については、授業内容の理解度60%、授業参加の積極度40%で評価する。|②授業内容の理解度については、毎回の課題の回答内容の採点結果をもとに評価する。|③授業参加の積極度については、課題の提出状況をもとに評価する。|④規定以上の欠席回数がある場合や受講態度に問題が多い場合には、単位を認めないので、注意すること。

<教科書>

東裕
憲法学事始（第2版）
一学舎

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	講義の目的や進め方、評価方法等の説明
2	憲法の意義等	憲法制定の経緯、憲法の必要性等
3	国民主権と平和主義	憲法の基本原理、天皇の地位等
4	包括的基本権と法の下の平等	包括的基本権、法の下の平等の意義等
5	精神的自由権Ⅰ	思想・良心の自由、信教の自由、学問の自由等
6	精神的自由権Ⅱ	表現の自由をめぐる諸問題
7	経済的自由権	職業選択の自由、居住・移転の自由、財産権等
8	身体的自由権	人身の自由、刑事被告人・被疑者の権利保障等
9	参政権・国務請求権	参政権、裁判を受ける権利等
10	社会権	生存権、教育を受ける権利、労働基本権等
11	国会	国会の地位、組織、権能等
12	内閣	内閣の組織、権限等
13	裁判所	司法権、裁判所の組織・権能等
14	総括Ⅰ	第2回～第7回の授業の振り返り等
15	総括Ⅱ	第8回～第13回の授業の振り返り等

科目コード	13100		区分	教養科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	フレッシュマンセミナー		担当者名	後藤由佳、趙秋華、中井和弥 増岡希望、本庄慶樹、畠中要輔 細井 健、木戸和彦、塩津萌々夏、 大野呂浩志、伊藤仁美、高橋純一			○		
配当年次	1	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

大学4年間の学生生活は、その後の人生に大きな影響を与える。この4年間をどのように生きるか、大学生活をどのように過ごすかを考え、学生一人ひとりが責任をもって、社会人として成長するための助言指導をおこなう。本授業では、社会で求められる社会人基礎力をもとに、大学生としての基礎・基本を身に付けることを目指し、主体的に学習に取り組むことのできる態度を養成していく。基本的に講話形式で展開する。基礎ゼミナールと連動しながら、IPU生として求められる資質・態度を考え、実践することで、自分に自信を持ち、妥協しない進路選びの土台を作る。

<授業の到達目標>

本授業では、非認知能力及び認知能力の獲得のために、本学学生に求められる基礎・基本となる力を養い、2年次キャリアディベロップメントにおいて自身の適切な進路決定をするための土台づくりが目的である。毎時の講話を通して、①読解力や傾聴力、書く力を身に付ける。②スピーチする力を身に付ける。③学生生活や学習習慣などの自己管理・時間管理能力を身につける。④大学生として求められる基礎学力の獲得と定着。以上の点から主体的・能動的に学び続ける学生としての資質・能力を育成することを目標とする。

<授業の方法>

1. 講義（メンターやゲストスピーカー等による講話） 2. グループワーク 3. 省察活動（質疑・まとめ・感想発表）

<準備学習等（予習・復習）> ※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習 スピーチの準備等事前に告知された課題 1時間復習 テーマに即したレポートの作成1時間

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本授業は、一般教養科目のディプロマ・ポリシー5（汎用的技能：情報活用、論理、問題解決等に関する汎用的技能）と関連付けられています。本授業において、本学の建学の精神である「挑戦と創造の教育」を達成するための基礎科目として位置付けており、初年次における大学の理解、およびジェネリックスキルの育成を行う。また、二年次の「キャリアデベロップメント」の基礎科目となる。

<成績評価方法> ※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度（身だしなみを含む）30%、小課題50%（基礎学力課題を含む）、最終課題20%。| 毎時、提示するレポート課題については、期日までに完成させ提出すること。

<教科書>

特になし

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	IPU生になる基礎基本①（挨拶・態度等）	本授業の目的・意義・建学の理念を理解する。
2	大学内の部署・施設の役割について 大学教員・職員の仕事について知る	大学について知る
3	大学・学部・学科について知る①	所属学部・学科について考える
4	大学・学部・学科について知る②	卒業後の進路について考える
5	学長講話	人に伝える必要性について考える
6	スピーチスキルアップ講座①	伝わる内容を考える
7	ビブリオバトル	ビブリオバトル学部・学科予選
8	前期まとめ	大学生活を振り返る①
9	IPU生になる基礎基本②「基礎学力」	基礎学力の必要性について考える
10	理事長講話	認知能力と非認知能力の必要性について考える
11	スピーチスキルアップ講座②	伝えるための方法を考える
12	アピール動画を考える	アピールするための方法を考える
13	スピーチコンテスト予選	各学科の代表者スピーチを聞き評価を行う
14	スピーチコンテスト	各学科の代表者スピーチを聞き評価を行う
15	1年間まとめ	大学生活を振り返る② 1年間の振り返りを行い、レポートを作成する。

全学共通・教養科目

科目コード	13100		区 分	教養科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	フレッシュマンセミナー		担当者名	三垣雅美、本村大輔、手嶋竜二 松澤俊雄、塩盛俊明、片上摩紀			○		
配当年次	1	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

大学4年間の学生生活は、その後の人生に大きな影響を与える。この4年間をどのように生きるか、大学生活をどのように過ごすかを考え、学生一人ひとりが責任をもって、社会人として成長するための助言指導をおこなう。本授業では、社会で求められる社会人基礎力をもとに、大学生としての基礎・基本を身に付けることを目指し、主体的に学習に取り組むことのできる態度を養成していく。基本的に講話形式で展開する。基礎ゼミナールと連動しながら、IPU生として求められる資質・態度を考え、実践することで、自分に自信を持ち、妥協しない進路選びの土台を作る。

<授業の到達目標>

本授業では、非認知能力及び認知能力の獲得のために、本学学生に求められる基礎・基本となる力を養い、2年次キャリアディベロップメントにおいて自身の適切な進路決定をするための土台づくりが目的である。毎時の講話を通して、①読解力や傾聴力、書く力を身に付ける。②スピーチする力を身に付ける。③学生生活や学習習慣などの自己管理・時間管理能力を身につける。④大学生として求められる基礎学力の獲得と定着。以上の点から主体的・能動的に学び続ける学生としての資質・能力を育成することを目標とする。

<授業の方法>

1. 講義（メンターやゲストスピーカー等による講話）2. グループワーク3. 省察活動（質疑・まとめ・感想発表）

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習 スピーチの準備等事前に告知された課題 1時間復習 テーマに即したレポートの作成1時間

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本授業は、一般教養科目のディプロマ・ポリシー5（汎用的技能：情報活用、論理、問題解決等に関する汎用的技能）と関連付けられています。本授業において、本学の建学の精神である「挑戦と創造の教育」を達成するための基礎科目として位置付けており、初年次における大学の理解、およびジェネリックスキルの育成を行う。また、二年次の「キャリアデベロップメント」の基礎科目となる。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度(身だしなみを含む)30%、小課題50%（基礎学力課題を含む）、最終課題20%。| 毎時、提示するレポート課題については、期日までに完成させ提出すること。

<教科書>

特になし

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	IPU生になる基礎基本①（挨拶・態度等）	本授業の目的・意義・建学の理念を理解する。
2	大学内の部署・施設の役割について 大学教員・職員の仕事について知る	大学について知る
3	大学・学部・学科について知る①	所属学部・学科について考える
4	大学・学部・学科について知る②	卒業後の進路について考える
5	学長講話	人に伝える必要性について考える
6	スピーチスキルアップ講座①	伝える内容を考える
7	ビブリオバトル	ビブリオバトル学部・学科予選
8	前期まとめ	大学生活を振り返る①
9	IPU生になる基礎基本②「基礎学力」	基礎学力の必要性について考える
10	理事長講話	認知能力と非認知能力の必要性について考える
11	スピーチスキルアップ講座②	伝えるための方法を考える
12	アピール動画を考える	アピールするための方法を考える
13	スピーチコンテスト予選	各学科の代表者スピーチを聞き評価を行う
14	スピーチコンテスト	各学科の代表者スピーチを聞き評価を行う
15	1年間まとめ	大学生活を振り返る② 1年間の振り返りを行い、レポートを作成する。

全学共通・教養科目

科目コード	13100		区分	教養科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	フレッシュマンセミナー		担当人名	箕戸 崇史、宮本 彩、河野儀久 古山喜一、梶谷亮輔、仙波慎平 保科圭汰、江波戸智希、矢野智彦 佐々木史之、大井理緒、常浦光希			○		
配当年次	1	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

大学4年間の学生生活は、その後の人生に大きな影響を与える。この4年間をどのように生きるか、大学生活をどのように過ごすかを考え、学生一人ひとりが責任をもって、社会人として成長するための助言指導をおこなう。本授業では、社会で求められる社会人基礎力をもとに、大学生としての基礎・基本を身に付けることを目指し、主体的に学習に取り組むことのできる態度を養成していく。基本的に講話形式で展開する。基礎ゼミナールと連動しながら、IPU生として求められる資質・態度を考え、実践することで、自分に自信を持ち、妥協しない進路選びの土台を作る。

<授業の到達目標>

本授業では、非認知能力及び認知能力の獲得のために、本学学生に求められる基礎・基本となる力を養い、2年次キャリアディベロップメントにおいて自身の適切な進路決定をするための土台づくりが目的である。毎時の講話を通して、①読解力や傾聴力、書く力を身に付ける。②スピーチする力を身に付ける。③学生生活や学習習慣などの自己管理・時間管理能力を身につける。④大学生として求められる基礎学力の獲得と定着。以上の点から主体的・能動的に学び続ける学生としての資質・能力を育成することを目標とする。

<授業の方法>

1. 講義（メンターやゲストスピーカー等による講話） 2. グループワーク 3. 省察活動（質疑・まとめ・感想発表）

<準備学習等（予習・復習）> ※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習 スピーチの準備等事前に告知された課題 1時間復習 テーマに即したレポートの作成1時間

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本授業は、一般教養科目のディプロマ・ポリシー5（汎用的技能：情報活用、論理、問題解決等に関する汎用的技能）と関連付けられています。本授業において、本学の建学の精神である「挑戦と創造の教育」を達成するための基礎科目として位置付けており、初年次における大学の理解、およびジェネリックスキルの育成を行う。また、2年次の「キャリアデベロップメント」の基礎科目となる。

<成績評価方法> ※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度（身だしなみを含む）30%、小課題50%（基礎学力課題を含む）、最終課題20%。| 毎時、提示するレポート課題については、期日までに完成させ提出すること。

<教科書>

特になし

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	IPU生になる基礎基本①（挨拶・態度等）	本授業の目的・意義・建学の理念を理解する。
2	大学内の部署・施設の役割について 大学教員・職員の仕事について知る	大学について知る
3	大学・学部・学科について知る①	所属学部・学科について考える
4	大学・学部・学科について知る②	卒業後の進路について考える
5	学長講話	人に伝える必要性について考える
6	スピーチスキルアップ講座①	伝わる内容を考える
7	ビブリオバトル	ビブリオバトル学部・学科予選
8	前期まとめ	大学生活を振り返る①
9	IPU生になる基礎基本②「基礎学力」	基礎学力の必要性について考える
10	理事長講話	認知能力と非認知能力の必要性について考える
11	スピーチスキルアップ講座②	伝えるための方法を考える
12	アピール動画を考える	アピールするための方法を考える
13	スピーチコンテスト予選	各学科の代表者スピーチを聞き評価を行う
14	スピーチコンテスト	各学科の代表者スピーチを聞き評価を行う
15	1年間まとめ	大学生活を振り返る② 1年間の振り返りを行い、レポートを作成する。

科目コード	13200		区 分	教養			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	キャリアディベロップメント		担当名	川瀬雅、酒井健太郎、坪田章彦 佐藤優次、福政武彦、安永和央 赤松久美子、三堀仁、中家淳悟 松尾健太郎、小澤尚子、浅田栄里子			○		
配当年次	2	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

「働くこと」は、生活の安定や社会貢献など、豊かで人間らしい生活を送る上で大変重要な意義を持つ。本授業では、社会人として社会の中でどう生きていくのかを考えながら、求められるスキルについて分析し、そのスキルを身につけていく。さらに、共に設定したテーマや課題に対して、仲間と共にチームで協力・協働することを通して、社会人基礎力となる主体性・コミュニケーション力・応用力の育成を目指す。またデジタルツールを使用し、その工夫した活用に努める。そして、専門職・企業人・およびゲストスピーカーによる「働くこと」の意味、仕事の適正、求められる能力などの講話を受けたり、実際に現場体験をしたりすることで、社会人として必要な実践力を向上させていく。

<授業の到達目標>

1. 自己の資質・能力を把握したり、職業適性を理解したりして、職業選択の見通しをもつことができる。2. 毎回の演習や講話に主体的に参加し、テーマについての学びと自己の考えについて適切かつ的確に言語化したり、デジタルツールを活用し、意見交換ができる。3. 実践の場を通して、社会人として必要な実践力を向上させる。

<授業の方法>

1. 講義（ゲストスピーカー等による講話）2. グループワーク、グループディスカッション、プレゼンテーション発表3. 省察活動（質疑・まとめ・感想発表）3. 課題（基礎学力教材に取り組む）

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：毎回のテーマに関する自己の経験や意見をまとめた上で講話に臨む。（毎回30分程度）復習：講義・演習終了後、本時の講義についてのまとめを行い、レポートや提示された課題を作成し提出する。（毎回1時間程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は一般教養科目のディプロマポリシー6（自律や社会性等に関する態度・指向性）と関連付けられている。当該教養科目は、現代社会に求められる資質・能力に関する幅広い知識を修めるだけでなく、実践の場においても主体的・協同的に学び続ける姿勢や実践力の育成に向けた科目である。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義への取り組み姿勢と受講態度、受講意欲 30%|グループワーク・レポート課題・基礎学力課題 等60%|最終のまとめレポート10%|必ず、授業時間と準備学習で課題に取り組み、期日までに発表・提出をすること

<教科書>

<参考書>

吉原恵子他

スタディスキルズ・トレーニング実務出版

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	2年生におけるキャリアの学びデザイン	・初年次部長講話 ・授業の内容の理解 ・自分のキャリアについて考える
2	IPU2年生としての心構え	理事長講話「非認知能力を培う」
3	メンター講話	メンターリレー講話「それぞれのプロフェッショナルの道」
4	プレゼンテーション講話①	プレゼンテーション作成の基本（デザイン、色彩、話し方、所作など）
5	学部学科教育	プレゼンテーション発表に向けて相互発表等
6	学部長または学科長講話	各学部学科の専門内容を踏まえ「個々の強みを生かすとは」について講話
7	プレゼンテーションコンテスト（学部本選）	自分のキャリアについて考えたプレゼンテーションを行う。（学部内にて相互評価）
8	副学長講話	「2年生折り返し地点を迎えて」
9	キャリア講話①	外部講師を迎えてキャリア選択について考える
10	キャリア講話②	就活への道筋に関する講話
11	プロジェクト型学習①	各学部学科による専門教育
12	プロジェクト型学習②	各学部学科による専門教育
13	プロジェクト型学習③	各学部学科による専門教育
14	プロジェクト型学習④	各学部学科による専門教育
15	IPU3年生に向けて	学長講話「3年生に向けて：IPU生の非認知能力」

科目コード	13200		区分	教養			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	キャリアディベロップメント		担当者名	倉田知秋、齊藤慎弥、清水健太 白取耕一郎、中西敏之、范一楠 歌代哲也、大平真紀子			○		
配当年次	2	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

「働くこと」は、生活の安定や社会貢献など、豊かで人間らしい生活を送る上で大変重要な意義を持つ。本授業では、社会人として社会の中でどう生きていくのかを考えながら、求められるスキルについて分析し、そのスキルを身につけていく。さらに、共に設定したテーマや課題に対して、仲間と共にチームで協力・協働することを通して、社会人基礎力となる主体性・コミュニケーション力・応用力の育成を目指す。またデジタルツールを使用し、その工夫した活用に努める。そして、専門職・企業人・およびゲストスピーカーによる「働くこと」の意味、仕事の適正、求められる能力などの講話を受けたり、実際に現場体験をしたりすることで、社会人として必要な実践力を向上させていく。

<授業の到達目標>

1. 自己の資質・能力を把握したり、職業適性を理解したりして、職業選択の見通しをもつことができる。2. 毎回の演習や講話に主体的に参加し、テーマについての学びと自己の考えについて適切かつ確に言語化したり、デジタルツールを活用し、意見交換ができる。3. 実践の場を通して、社会人として必要な実践力を向上させる。

<授業の方法>

1. 講義（ゲストスピーカー等による講話）2. グループワーク、グループディスカッション、プレゼンテーション発表3. 省察活動（質疑・まとめ・感想発表）3. 課題（基礎学力教材に取り組む）

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：毎回のテーマに関する自己の経験や意見をまとめた上で講話に臨む。（毎回30分程度）復習：講義・演習終了後、本時の講義についてのまとめを行い、レポートや提示された課題を作成し提出する。（毎回1時間程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は一般教養科目のディプロマポリシー6（自律や社会性等に関する態度・指向性）と関連付けられている。当該教養科目は、現代社会に求められる資質・能力に関する幅広い知識を修めるだけでなく、実践の場においても主体的・協同的に学び続ける姿勢や実践力の育成に向けた科目である。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義への取り組み姿勢と受講態度、受講意欲 30%|グループワーク・レポート課題・基礎学力課題 等60%|最終のまとめレポート10%||必ず、授業時間と準備学習で課題に取り組み、期日までに発表・提出をすること

<教科書>

<参考書>

吉原恵子他

スタディスキルズ・トレーニング実務出版

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	2年生におけるキャリアの学びデザイン	・初年次部長講話 ・授業の内容の理解 ・自分のキャリアについて考える
2	IPU2年生としての心構え	理事長講話「非認知能力を培う」
3	メンター講話	メンターリレー講話「それぞれのプロフェッショナルの道」
4	プレゼンテーション講話①	プレゼンテーション作成の基本（デザイン、色彩、話し方、所作など）
5	学部学科教育	プレゼンテーション発表に向けて相互発表等
6	学部長または学科長講話	各学部学科の専門内容を踏まえ「個々の強みを生かすとは」について講話
7	プレゼンテーションコンテスト（学部本選）	自分のキャリアについて考えたプレゼンテーションを行う。（学部内にて相互評価）
8	副学長講話	「2年生折り返し地点を迎えて」
9	キャリア講話①	外部講師を迎えてキャリア選択について考える
10	キャリア講話②	就活への道筋に関する講話
11	プロジェクト型学習①	各学部学科による専門教育
12	プロジェクト型学習②	各学部学科による専門教育
13	プロジェクト型学習③	各学部学科による専門教育
14	プロジェクト型学習④	各学部学科による専門教育
15	IPU3年生に向けて	学長講話「3年生に向けて：IPU生の非認知能力」

科目コード	13200		区分	教養			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	キャリアディベロップメント		担当者名	畑島紀昭、小玉京士朗、飯出一秀 坂本賢広、嘉門良亮、白石 翔 明石啓太、齋藤祐一、前川真姫 國友亮佑、木下祥一、坂本康輔 十河直太、石村和博、片桐夏海 品田直宏、平田佳弘、崔 回淑 吉岡利貢、田中耕作			○		
配当年次	2	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

「働くこと」は、生活の安定や社会貢献など、豊かで人間らしい生活を送る上で大変重要な意義を持つ。本授業では、社会人として社会の中でどう生きていくのかを考えながら、求められるスキルについて分析し、そのスキルを身につけていく。さらに、共に設定したテーマや課題に対して、仲間と共にチームで協力・協働することを通して、社会人基礎力となる主体性・コミュニケーション力・応用力の育成を目指す。またデジタルツールを使用し、その工夫した活用に努める。そして、専門職・企業人・教員およびゲストスピーカーによる「働くこと」の意味、仕事の適正、求められる能力などの講話を受けたり、実際に現場体験をしたりすることで、社会人として必要な実践力を向上させていく。

<授業の到達目標>

1. 自己の資質・能力を把握したり、職業適性を理解したりして、職業選択の見通しをもつことができる。2. 毎回の演習や講話に主体的に参加し、テーマについての学びと自己の考えについて適切かつ確に言語化したり、デジタルツールを活用し、意見交換ができる。3. 実践の場を通して、社会人として必要な実践力を向上させる。

<授業の方法>

1. 講義（ゲストスピーカー等による講話）2. グループワーク、グループディスカッション3. 省察活動（質疑・まとめ・感想発表）

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：毎回のテーマに関する自己の経験や意見をまとめた上で講話に臨む。（毎回30分程度）復習：講義・演習終了後、本時の講話についてのまとめを行い、レポートや提示された課題を作成し提出する。（毎回1時間程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は一般教養科目のディプロマポリシー6（自律や社会性等に関する態度・指向性）と関連付けられている。当該教養科目は、現代社会に求められる資質・能力に関する幅広い知識を修めるだけでなく、実践の場においても主体的・協同的に学び続ける姿勢や実践力の育成に向けた科目である。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義への取組み姿勢と受講態度、受講意欲 30%、グループワーク・レポート課題 等60%、最終のまとめレポート 10%

<教科書>

吉原恵子他
スタディスキルズ・トレーニング
実務出版

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	授業の内容の理解・自分のキャリアについて考える（就職に向けて今の自分を振り返る）
2	IPU2年生としての心構え	学長講話「知の鍛錬・心の鍛錬」2年生としての姿
3	プロフェッショナルとは①	メンターリレー講話：アスリート編
4	プロフェッショナルとは②	メンターリレー講話：教員編
5	プロフェッショナルとは③	メンターリレー講話：アスリートサポート編
6	求められる非認知能力とは	理事長講話「非認知能力を培う」
7	先輩の就活体験談	その道を選んだ理由やターニングポイントについての実体験を聞く
8	今、求められる人財（人材）は	理事長講話「人間力の向上へ」
9	R-Capの解説	統計的なデータから自身のキャリア形成を考える
10	体育・スポーツの世界で生き抜く力とは	高嶋教授講話
11	私の目指す道（My Dream）①	自分の将来像について学科内で発表する
12	私の目指す道（My Dream）②	それぞれの専門職を目指す将来像について知る
13	自らの知的関心の探索①	各ゼミの先輩との座談会
14	自らの知的関心の探索②	ゼミ指導教員との座談会
15	IPU3年生に向けて	学長講話「3年生に向けて」

科目コード	14002		区分	教養			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	キャリアデザインⅠ		担当者名	佐藤 典子			○		
配当年次	3	配当学期	前期	単位数	1	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

「折れない、やめないIPU生」の育成をしつつ就職支援も強力に推し進めるために、キャリアデザインⅠでは、具体的な就活能力向上につながる授業とする。

<授業の到達目標>

自己分析、経験の棚卸が出来るようになり、将来のキャリアをデザインする力が付くようになる。

<授業の方法>

アカデミックな内容に加え、実用的なノウハウも学ぶ。外部講師を招聘しての講義や、ペアワークなどを通してアクティブに学ぶ。履修者は例年300名近いので、2つの教室に分けてAとBの45分授業を2回実施する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

テキストを使う授業の前後では予習、復習があり、ゲストスピーカーを招聘する際には感想文（約1時間）の提出などを課す。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本学の教育目標である「豊かな人間性と個性を有した実践力のある専門的職業人材・国際人の育成」と関連している。また教養科目ディプロマポリシー⑥自立した社会性に関する態度・指向性、⑦生涯にわたり学び続ける態度・指向性と関連している。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

参加意欲・態度60%、提出物40%、フィードバックについてはグループクラスルーム上で各自へ伝える。

<教科書>

山崎京子、平林正樹 2019年
未来を拓くキャリア・デザイン講座
中央経済社

<参考書>

特に指定しない

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	A. キャリアとは B. ガイダンス	前期の授業内容の紹介ならびに、キャリア支援や就活基礎知識について
2	A. 自己理解① B. 翔志会について	自己理解、翔志会の特徴の概略説明と就職支援の在り方など
3	A. 自己理解② B. ナビサイト登録会	就職支援のナビサイトの紹介と登録
4	A. 価値観カード B. 就活最前線	自己の価値観を掘り下げる。就活のスケジュールや現状を学ぶ。
5	A. 人間関係とコミュニケーション B. インターンシップの重要性	テキスト第3章を使い、アサーティブネスについて理解する。3年前期で各自がインターンシップに参加することを促す。
6	A. 企業理解① B. 企業の公開情報の見方	テキスト第4章を使い、経営理念や経営ビジョンについて考え、企業研究の手法を学ぶ。求人票や四季報の見方、就職サイト情報の検索方法を知る。
7	A. 企業理解② B. OBOGに聞く「置かれた場所で頑張れる方法」	テキスト第4章を使って、ジョブ型採用を含めた職種研究の手法を学ぶ。就職した職場は100%希望したところではないかもしれないが、その環境でも頑張れる方法を学ぶ。
8	A. 新卒労働市場 B. 提出書類対策(履歴書、オープンES、マイキャリアBOX)	グローバル化、技術革新・少子高齢化に伴う労働市場の変化への理解を深める。選考対策 その1
9	A. 働き方理解 B. 企業とのコミュニケーション	ブラック企業や働き方改革について理解を深める。インターンシップ参加時の対策としてコミュニケーションの基本を学ぶ。
10	A. キャリアの理論① B. インターンシップについて4年生に聞く	トランジションモデルをベースに初期キャリア形成について考える。先輩にインターンシップでのリアルを聞く。
11	A. キャリアの理論② B. 面接対策、WEB面接対策、質問対策	プロティアンキャリアをベースにしたキャリアの自走について考える。選考対策 その2
12	A. 社会を知ろう① B. グループディスカッション対策、筆記試験、適性検査対策	自分の関心がある社会課題を明確化する。選考対策 その3
13	A. 社会を知ろう② B. 就活体験を聞く	社会を知ろう①の発表を通して面接対策を実施。先輩の体験談を聞く。
14	A. B. ともに企業理解③	グローバルなビジネスパーソンになることを目指して、外部講師による講演を聞く。
15	A. 夏休みの目標設定をするためにSMART目標について学ぶ B. 前期キャリアデザイン総括	振り返りと夏休みの目標設定。提出物やインターンシップ申し込みの確認、授業評価など

全学共通・教養科目

科目コード	14002		区分	教養科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	キャリアデザインⅠ		担当者名	千葉 照久			○		
配当年次	3	配当学期	前期	単位数	1	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

キャリアデザインⅠは子ども発達学科、教育経営学科、体育学科に在籍している教員を志望する学生が対象である。教員としての働くことの意義や自己理解を深めるなかで、必要な資質や能力を養い、上雷の生き方について考えさせるとともに、教員採用試験合格を目指して、必要な取り組みについて指導をおこなう。学習成果については、論理的思考力、表現力、協働性、教職への熱意などについて評価する。

<授業の到達目標>

- 1 教員を選択した意思を明確にし、その職に進むために必要な資質や能力を高めることができる。
- 2 自己理解を深め、将来の生き方について考えることができる。
- 3 教員採用試験合格を目指して、必要な取組を理解し、日常の実践に生かすことができる。

<授業の方法>

- ・講話を通して、課題の提示や説明を行う。
- ・課題についてグループワークを行う。
- ・課題についての演習を行う。
- ・レポートの提出。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

- ・学習予定表に沿った内容に対して、課題意識をもたせる。（予習）|・各回の講座の内容について、個人またはグループでの話し合いの中で、自分の考えを深めることができるようにする。|・学んだ事を通し自分の考えをレポートとしてまとめることができる。（復習：30分程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、教養科目ディプロマポリシー⑥、⑦と関連付けられている。「高い専門性と実践力のある教師」を育成するための教養科目であり、教職を目指す意思を固める時期の3年生を対象として、教育公務員として勤務するにあたっての認識と社会性に関する態度（DP6）、教師としての生涯にわたって学び続ける態度（DP7）を養うための科目である。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲 20%、 受講態度 20%、 講義内での課題等 20%、 最終レポート 40%

<教科書>

特に指定しない

<参考書>

特に指定しない

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション 学校支援ボランティア	本講座の目的・意義・概要 教員を志望する理由 学校支援ボランティアの意義
2	学長講話	働くことの意義と職業選択
3	立ち振る舞い 教員採用試験の概要 進路調査	教員になるための心構え 教員採用試験の時期と内容 合格までのスケジュール
4	授業の基礎・基本	授業と板書 板書の文字
5	教育現場の課題①	講義～グループワーク
6	講話 生徒指導	生徒指導とは
7	教育現場の課題②	講義～グループワーク
8	教育現場の課題③	講義～グループワーク
9	教育現場の課題④	講義～グループワーク
10	教育現場の課題⑤	講義～グループワーク
11	講話 現場が求める人材	学校現場の現状と期待される人材
12	教師に求められる資質や能力①	講義～グループワーク
13	教師に求められる資質や能力②	講義～グループワーク
14	教師に求められる資質や能力③	講義～グループワーク
15	教師になるための取組の成果と課題	教師になるために努力していること 後期に向けての課題 夏季休業中の過ごし方 レポート試験

全学共通・教養科目

科目コード	14002		区分	教養科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	キャリアデザインⅠ		担当者名	森 利治			○		
配当年次	3	配当学期	前期	単位数	1	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

このキャリアデザインⅠ（公務員）は体育学科、教育経営学科、現代経営学科に在籍している公務員就職を希望する学生対象の講義である。このクラスでは公務員就職を希望し、公僕として働くことの意義を実際に各種公務員として働くためにどんな職種の公務員があるのか、それはどのような業務をするのかを知ることとなりたい職種を絞っていきます。そのためには公務員試験とはどのようなものか、どんな試験内容で構成されているのか、教養試験、適性試験、論文試験、面接試験などについて解説していく。以上のことを学んでいく中で本当に公務員試験に取り組む姿勢を養い、後期から始まる試験勉強に向けて覚悟を決めさせていく。

<授業の到達目標>

1. 公務員就職について職種や試験の知識を学び、将来目指すべき職種を見つける。 2. 自己理解を深め、将来の自分の方向性について考える。

<授業の方法>

講義、講演会、グループワーク（模擬面接、集団討論）等の形式で実施する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：グループワークをする際に、事前に課題を与え個別に調べさせ配布用紙に記入する（1時間程度）。復習：グループワークや講演会の場合は振り返りレポートを提出させる（30分程度）。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この授業は、教養科目のディプロマポリシー6（自律や社会性等に関する態度・指向性）と関連付けられている。3年次に採用試験に向けての知識と心構えを身に付け、4年次に本試験に合格できることを目的とする。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

単元別レポート70%、授業に取り組む姿勢30%

<教科書>

特に指定しない

<参考書>

特に指定しない

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	本科目の目的・意義・概要、スーツ着用にあたっての再確認事項、公務員を志望する理由、立志会の説明
2	公務員試験の概要（1）	公務員試験の種類
3	公務員試験の概要（2）	公務員の職種について①（公安職）
4	公務員試験の概要（3）	公務員試験の職種について②（公安職）
5	公務員試験の概要（4）	公務員試験の職種③（行政職）
6	公務員試験の概要（5）	公務員試験の募集要項の見方と、願書の作成体験
7	公務員試験の概要（6）	各種公務員試験の出題内容と実際の問題を見てみよう
8	講話「現場が求める人材」	大都市圏の警察官の仕事について
9	公務員試験の概要（7）	体力検査、各種適性検査について
10	公務員試験の概要（8）	各種試験の論文課題について
11	公務員試験の概要（9）	論文を実際に書いてみる
12	立志会の入会説明	全体のカリキュラムの概要、活動内容の説明、費用についての説明、4年生の先輩からの話
13	公務員試験の概要（10）	面接試験について（自分についての棚卸）
14	公務員試験の概要（11）	面接試験について（自己分析）
15	公務員試験の概要（12）	面接試験について（自己PR）

科目コード	14002		区分	教養科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	キャリアデザイン I		担当者名	檜 日佳			○		
配当年次	3	配当学期	前期	単位数	1	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

このキャリアデザインは、子ども発達学科に在籍している幼稚園・保育園・こども園への就職を希望する学生対象である。このクラスでは、保育職を選択し働くことの意義や自己理解を深める中で、保育職に進むために必要な資質や能力を養い、将来の生き方について考えさせるとともに、保育職採用試験合格を目指して、論作文、面接、実技試験などの実際について指導を行う。

<授業の到達目標>

1 保育職を選択した意志を明確にし、保育職に進むために必要な資質や能力を高める。2 自己理解を深め、将来の生き方について考える。3 保育職採用試験合格を目指し、論作文、面接、実技試験などの技術を高める。

<授業の方法>

・講話を通して、課題の提示や説明・課題についてのグループワーク・課題についての演習

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

・予習：学習予定表に沿って、次回の内容に関する関連資料や課題を読み、授業の準備をする。（30分程度）・復習：各回の講座の内容について、個人またはグループで復習をし、講義ごとのワークシートの追加記入や復習をする。（60分程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は本学の教育目標「豊かな人間性と個性を有した実践力のある実践的職業人・国際人の育成」と関連している。教養科目ディプロマポリシー6（自律や社会性に関する態度・指向性）と7（生涯にわたり学び続ける態度・指向性）に対応している。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

・学習態度15%、グループ貢献度15%、課題提出30%、小テスト40%・提出物は期限厳守のこと

<教科書>

特に指定しない

<参考書>

特に指定しない

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	授業の目的・意義・概要
2	理事長講話	働くことの意義と職業選択
3	採用試験の流れと概要	採用試験までの流れ、自治体・法人等の探し方と選び方、進路調査
4	社会人のマナー（1）	立居振舞
5	社会人のマナー（2）	言葉遣い・電話のかけ方
6	社会人のマナー（3）	手紙、封筒の書き方
7	保育者・施設職員の仕事とやりがい(1)	DVD「保育所と幼稚園の一日」「児童養護施設」の視聴
8	保育者・施設職員の仕事とやりがい(2)	先輩保育士の講話（卒業生公立園先輩）
9	保育者・施設職員の仕事とやりがい(3)	先輩保育士の講話（卒業生私立園先輩）
10	保育者・施設職員の仕事とやりがい(4)	先輩保育士の講話（卒業生福祉施設の先輩）
11	保育実技（1）	手遊び・集団遊び
12	保育実技（2）	絵本の読み聞かせ
13	保育実技（3）	紙芝居、ペーパーサート
14	保育実技（4）	わらべ歌、弾き歌い
15	前期の成果と課題	前期のまとめと今後の課題

全学共通・教養科目

科目コード	14002		区分	教養科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	キャリアデザイン I		担当者名	宮本 彩			○		
配当年次	3	配当学期	前期	単位数	1	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

卒業後の進路を実りあるものにするためには、計画的にキャリアプランを立て、早期から準備に取り組む必要がある。進路別就職活動のスケジュールを理解するとともに、実際の現場で求められている柔道整復師のスキルやモラルを理解し、身に付けることを学修成果として求めます。

<授業の到達目標>

柔道整復師に求められる職業倫理及び、社会保障制度について学び、柔道整復師の役割を理解し、自身の目指すべき方向性を明確にする。柔道整復師の職務と誇りを育むとともに、ビジネスマナー、自己分析力、業界に対する知識を身に付ける。

<授業の方法>

必要に応じて、ゲストスピーカーをお招きして講義を進める（オンライン形式も含む）。資料の配布等はGoogle Classroomを活用する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：事前に連絡した内容を予習して授業に臨む（毎回1時間程度）復習：講話後はレポートを提出し、柔道整復師の理解を深める。（毎回1時間程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目はディプロマポリシー6（自律や社会性等に関する態度・指向性）と7（生涯にわたり学び続ける態度・指向性）関連付けられています。単に知識を習得・活用するだけでなく、これからの社会に対して柔道整復師がどのように活躍できるか考え、学生一人一人が社会に貢献できる柔道整復師像を確立できることを目指しています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業意欲・態度：20%授業中の意見交換：30%授業課題・レポート提出：50%

<教科書>

なし

<参考書>

なし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	授業の目的、進め方についての説明就職先に関するアンケート
2	職業倫理①	業界調査（地域医療に貢献する柔道整復師の実態）
3	職業倫理②	業界調査②（効果のある施術を探る）
4	職業倫理③	OB・OG講話 柔道整復師の業務とその実際
5	職業倫理④	企業講話 柔道整復師が果たすべき役割
6	自己分析①	自己PRの仕方① 自分の強みを考える
7	自己分析②	自己PRの仕方② 自分の強みを伝える
8	自己分析③	自己PRの仕方③ 名刺の役割および作成
9	自己分析④	志望動機を考える
10	就職活動の実践①	履歴書・エントリーシートの書き方
11	就職活動の実践②	履歴書・エントリーシートの相互指導（添削）
12	就職活動の実践③	面接（オンライン及び対面）の対応
13	就職セミナー①	企業数社が集まる就職セミナーに参加し、複数の企業の説明を聞く。
14	就職セミナー②	企業数社が集まる就職セミナーに参加し、複数の企業との面談を体験する。
15	前期まとめ	柔道整復術の短期的視点・長期的視点夏季休暇中の企業見学について

全学共通・教養科目

科目コード	14002		区分	教養科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	キャリアデザイン I		担当者名	大平 真紀子			○		
配当年次	3	配当学期	前期	単位数	1	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

卒業後の人生を爽りあるものにするためには、きちんとしたキャリアプランを立て、早期から準備に取り組む必要がある。本科目では、前期は進路別の就職活動の基本的スケジュールを理解するとともに、自己理解、職業・仕事の理解を通じ自身の目指すべき方向性を明確にする。後期は、就職活動に必要なビジネスマナー、自己分析、業界研究、面接対策等について実践的に学習していく。

<授業の到達目標>

卒業後の進路を選択し、選択した進路に進むために必要な資質や考え方、能力を獲得する。

<授業の方法>

講義と演習を組み合わせて実施する。業界・企業研究に関連する授業回で、グループワークを行う。面接対策に関連する授業回で、プレゼンテーションに類するものを行う。提出物はGoogle Classroomを用いて提出する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習（各回60分程度）：課題の指定された部分を通読したうえで、分からない言葉を調べる。復習（各回80分程度）：授業で学んだことを踏まえて、自身のキャリアについて考えたり、進路決定に向けた準備を進めたりする。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

進路選択を取り巻く諸相やそれらにかかわる不確実性を理解したうえで、自律的な意思決定とそれにもとづく個人行動を取れるようになることを目指すものである（教養科目DP6）。グローバル化・情報化による多様な環境変化の下、高い倫理観と豊かな教養力で問題解決に向けチームワークを構築する力を身に付け、生涯にわたり学ぶ基礎をつける科目である（教養科目DP7）。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

参加態度・学習意欲30%、講義内での課題 60%、最終レポート10%。課題に対するフィードバックは講義内で、最終レポートについてはUNIVERSAL PASSPORTで行う。

<教科書>

特に指定しない

<参考書>

久保田学（2018）

「留学生のための就職内定ワークブック」日本能率協会マネジメントセンターグエン・テュアン・ズオン（2018）「ベトナム人が日本企業に就職するための心得」日本ベンチャー大学パブリッシング

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	多様な選択肢を知る	日本就職、母国就職、進学などの選択肢の概観
2	日本で就職ということ（1）	日本の採用文化、就活スケジュール
3	日本で就職ということ（2）	留学生に対する企業側の期待と不安
4	キャリアを考える（1）	内的キャリアと外的キャリア
5	キャリアを考える（2）	キャリア・アンカー
6	自分がどういう人かを考える（1）	人生曲線、自分史
7	自分がどういう人かを考える（2）	コンピテンシー
8	自分がどうしたいかを考える（1）	未来史
9	自分がどうしたいかを考える（2）	日本との関係（つながり）
10	インターンシップ	日本のインターンシップの特徴、参加する意義、参加方法
11	業界を知る（1）	業界研究の視点、基本的な方法
12	業界を知る（2）	業界研究の実践
13	企業を知る（1）	企業研究の視点、基本的な方法
14	企業を知る（2）	企業研究の実践
15	筆記試験の重要性	適性検査、一般常識試験、論作文

全学共通・教養科目

科目コード	14002		区分	教養			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	キャリアデザインⅠ		担当者名	佐藤 典子			○		
配当年次	3	配当学期	前期	単位数	1	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

「折れない、やめないIPU生」の育成をしつつ就職支援も強力に推し進めるために、キャリアデザインⅠは、具体的な就活能力向上につながる授業とする。再履修者は就活のタイミングと重なることから、全面オンデマンド授業としてスケジュールを組みやすく、自主勉強が進展するような構成になっている。

<授業の到達目標>

自己分析、経験の棚卸が出来ようになり、将来のキャリアをデザインする力が付くようになる。

<授業の方法>

グーグルクラスルームに毎回動画と課題がアップしてある。全面オンデマンドで締め切りまでに課題を提出することで出席とする。キャリアセンターとの面談（ズームを含む）を定期的実施し、それも出席としてカウントする。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

前出のとおり全面課題提出となるが、授業履修と同様かそれ以上の学習時間を要するような課題を設定する。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本学の教育目標である「豊かな人間性と個性を有した実践力のある専門的職業人材・国際人の育成」と関連している。また教養科目ディプロマポリシー⑥自立した社会性に関する態度・指向性、⑦生涯にわたり学び続ける態度・指向性と関連している。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

参加意欲・態度60%（課題提出）に加え、テスト課題の採点40% フィードバックについては、グーグルクラスルーム上で各自へ実施する。

<教科書>

山崎京子、平林正樹 2019年
未来を拓くキャリアデザイン講座
中央経済社

<参考書>

特に指定しない

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	初回ガイダンス	前期の授業内容の紹介ならびに、キャリア支援や就活基礎知識について
2	企業とのコミュニケーション	就職活動において効果的に企業様とコミュニケーションしていくコツ
3	1年後の自分	近い将来の目標を立てる
4	キャリアカウンセラーとの面談	個別に就活の現状報告と相談
5	キャリアとは	テキスト第1章を使い、キャリアとは何かについて考察する
6	キャリアカウンセラーとの面談	個別に就活の現状報告と相談
7	キャリアアンカー	テキスト第2章を使って、自分のキャリアアンカーについて演習
8	キャリアカウンセラーとの面談	個別に就活の現状報告と相談
9	人間関係とコミュニケーション	テキスト第3章を使って、相手を尊重しつつ自分の意見を伝えるアサーティブなコミュニケーションについて学ぶ
10	キャリアカウンセラーとの面談	個別に就活の現状報告と相談
11	パーソナリティタイプ	YPYエデュケーションによる性格分析を使い、自己理解を深める
12	キャリアカウンセラーとの面談	個別に就活の現状報告と相談
13	卒業後のキャリア	社会人になってからの自分の人生を考察する
14	これからのキャリア	テキスト第5章を使い、これからのキャリアを外部環境の変化の中で考える
15	授業の総括	キャリア形成に役立つ質問集に答える

科目コード	14003	区分	教養			実務経験のある教員等による授業科目			
授業科目名	キャリアデザインII	担当者名	佐藤 典子			○			
配当年次	3	配当学期	後期	単位数	1	授業方法	講義	卒業要件	必須

<授業の概要>

「折れない、やめないIPU生」の育成をしつつ、就職支援も強力に推し進めるために、キャリアデザインIIでは働くことの意義や大学での学びが社会にどう関連するか考える。

<授業の到達目標>

業界分析や職種研究によって、将来の自分のキャリアを強くイメージできるようになる。また大学での学びが社会でどのように役に立つか自分の言葉で話せるようになる。

<授業の方法>

講義やグループディスカッションなど。2つの教室に分けてAとBの45分授業を2回実施する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

企業研究や課題レポートの作成などで約1時間

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本学の教育目標である「豊かな人間性と個性を有した実践力のある専門的職業人材・国際人の育成」と関連している。また教養科目ディプロマポリシー⑥「自立した社会性に関する態度・指向性」、⑦「生涯にわたり学び続ける態度・指向性」と関連している。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

参加意欲・態度60% 提出物40% 提出物へのフィードバックについてはグーグルクラスルームを活用する。

<教科書>

特に指定しない

<参考書>

特に指定しない

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	A. 初回ガイダンス B. ブラック企業に就職しないために	キャリアデザインIIとなるので、改めて初回ガイダンスで授業のルールや心構えについてキャリアセンター職員からアドバイスを提供。またブラック企業の実態について経験談をもとにしたレクチャーを聞き、理解を深める。
2	A. スタートアップセミナー B. キャリアカウンセラー・担当教員によるパネルディスカッション	3月1日の就活解禁までのスケジュールを把握し、どのようなスキルをいつまでに身に付けたいかについて知見を得る。様々な業界で就業経験のあるキャリアカウンセラーや担当教員がパネルディスカッション形式で自身の経験談を伝えることで、履修学生は業界、職種について具体的な理解を深める。
3	A. ビジネスマナー講座 B. インターンシップ報告会	秋冬インターンシップや早期選考で企業訪問をする機会も増えるため、知っておくべきビジネスマナーについてレクチャーを聞き備えておく。夏のインターンシップ報告会も併せて実施し、秋冬のインターンシップへの参加について意欲を高める。
4	A. OB・OGから学ぶ～転職する時に必要な力 B. OB・OGから学ぶ～起業する時に大切なこと	転職、起業をした卒業生に登壇してもらい、講話を聴く。卒業後に事業会社に就職して、業務を通して身に付ける力が将来の転職や起業に役立つことについて理解を深める。
5	A. 履歴書を書いてみよう B. 志望動機の書き方	書類選考を通過する履歴書とはどのようなものか。他者と差別化できる志望動機はどのようにして書くのかについて理解を十分に深めてもらい、異なる業界、職種へのエントリーに際しても学生自身がカスタマイズできるレベルにまでスキルが上がることを目指す。
6	A. 「違いを知る」①ベンチャー企業と老舗企業について B. 「違いを知る」②大手企業と中小企業について	理解しているようで理解できていない、先入観があり誤解していることが多い「ベンチャー企業と老舗企業」「大手企業と中小企業」の違いについて理解を深め、今後の企業選択に活かせるようになる。
7	A. 求人票の見方、支援サイトの使い方 B. 給与明細の見方、社会保険税金の考え方	就活解禁まで4か月を切るこのタイミングで、「求人票」の見方、「就活支援サイト」の使い方について理解を深める。社会人にとって重要項目である「お金」「保険」「税金」にまつわる知識を身に付ける。
8	A. 「違いを知る」③総合職と一般職について B. 「違いを知る」④BtoB企業とBtoC企業について	企業研究の時によく出る言葉で漠然としか理解できていないことが多い「総合職」「一般職」について十分に理解を深め、安易にそれらの言葉に左右されないようになることを目指す。法人営業、個人営業の違いについても理解を深め、今後の企業選択に活かす。
9	A. 業界研究①2社 B. 業界研究②2社	企業人事の方を招き講話をして頂き、その企業の業界について理解を深める。
10	A. 図書館ガイダンス（時事トピック含む） B. 人事担当者による勉強会	面接の王道質問である「時事問題」について図書館司書から知見が提供される。IPUのことを熟知している企業人事の方から就活の本音について話して頂き、就活生が陥りがちな落とし穴をうまく回避できる方法を身に付ける。
11	A. 学内合同説明会とバスツアーの案内 B. 業界研究③2社	翌年2月に実施する「学内合同企業説明会」と3月に実施する「バスツアー」について説明があり、参加を促す。企業の採用担当者と直接会う機会をどのように活用するかについて理解を深める。
12	A. 学長講話 B. 業界研究④2社	大橋節子学長より「社会に出るにあたって」また「企業就職」について講話頂き、人生において大切なことを学ぶ。
13	A. 職種研究①2社 B. 職種研究②2社	企業人事の方を招き講話頂くことで、募集のある職種について理解を深める。
14	A. 職種研究③2社 B. 職種研究④2社	企業人事の方を招き講話頂くことで、募集のある職種について理解を深める。
15	A. 4年生の心構え（事務手続き関連） B. 就活に備えるモチベーションアップ講座	キャリアデザインIIの最終回にあたり、4年生になって覚えておくべき大学での手続きについて学ぶ。あと1か月に迫った解禁日を前にモチベーションアップを狙う。

科目コード	14003		区 分	教養科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	キャリアデザインⅡ		担当者名	千葉 照久			○		
配当年次	3	配当学期	後期	単位数	1	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

このキャリアデザインは、子ども発達学科、教育経営学科、体育学科に在籍している教員を希望する学生対象である。このクラスでは、教員を選択し、働くことの意義や自己理解を深める中で、教員になるために必要な資質や能力を養い、将来の生き方について考えさせるとともに、教員採用試験合格を目指して、より実践的な取組について指導を行う。学習成果については、論理的思考力、表現力、協働性、教職への熱意などについて評価する。

<授業の到達目標>

1 教員を選択した意思を明確にし、その職に進むために必要な資質や能力を高めることができる。| 2 自己理解を深め、将来の生き方について考えることができる。| 3 教員採用試験合格を目指して、必要な取組を理解し、日常の実践に生かすことができる。

<授業の方法>

・講話を通して、課題の提示や説明。 ・課題についてのグループワーク。 | ・課題についての演習。 ・レポートの提出。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

・学習予定表に沿った内容に対して、課題意識をもたせる。（予習） | ・各回の講座の内容について、個人またはグループでの話し合いの中で、自分の考えを深めることが | できるようにする。 | ・学んだ事を通し自分の考えをレポートとしてまとめることができる。（復習：30分程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、教養科目ディプロマポリシー⑥、⑦と関連付けられている。「高い専門性と実践力のある教師」を育成するための教養科目であり、教職を目指す意思を固める時期の3年生を対象として、教育公務員として勤務するにあたっての認識と社会性に関する態度（DP6）、教師としての生涯にわたって学び続ける態度（DP7）を養うための科目である。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

・学習意欲 20% ・受講態度 20% ・講義内での課題等 20% ・最終レポート 40%

<教科書>

特に指定しない

<参考書>

特に指定しない

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	教員採用試験合格への取組 キャリアデザインの後期の予定 個別面談・学習進行表	合格に向けての心構え～これからの努力 *対策講座について *個別面談・学習進行表について
2	出前講座 「学校現場が必要としている 教員像 - 授業づくり」	主体的・対話的で深い学びの実現 *広島県教委「ワークショップ」
3	教育課題への対応① 「学習指導要領」	新学習指導要領の改訂のポイントとその理解 *講話・グループディスカッション
4	教育課題への対応② 「時事問題への対応」 情報モラル教育～	情報モラル教育の理解とその対応 *講話・グループディスカッション
5	教育課題への対応③ 「家庭・地域・専門機関等との連携」 ～チーム学校～	チーム学校の体制づくりの必要性 *講話・グループディスカッション
6	合格の秘訣を探る① 「教採合格者の体験」	教員採用試験合格者の体験発表 *「私はこうして合格した」
7	合格の秘訣を探る② 「個人面接・場面指導」	教採における個人・集団面接の概要と留意点 *先輩の個人面接・場面指導
8	合格の秘訣を探る③ 「模擬授業」	教採における模擬授業の概要と留意点 *先輩の模擬授業
9	合格の秘訣を探る④ 「集団面接・集団討論」	教採における集団討論等の概要と留意点 *先輩の集団面接・集団討論
10	講 話① 「学級集団の育て方」	学級集団づくりについての基本的な考え方と実践事例 *小学校長の講話
11	講 話② 「生徒指導への対応」	生徒指導についての基本的な考え方と実践事例 *中学校長の講話
12	教育課題への対応⑥ 「令和の日本型教育について」 ～個別最適な学び、 協働的な学びの実現～	個別最適な学び、協働的な学びの実現に向けた取り組み *講話・グループディスカッション
13	教育課題への対応④ 「人権尊重の教育」 いじめ・児童虐待・LGBT～	人権尊重の教育の基本的な考え方と取り組み *講話・グループディスカッション
14	教育課題への対応⑤ 「学校安全・学校防災」	学校安全・学校防災の取り組みの必要性 *講話・グループディスカッション
15	教採に向けた取組の成果と課題	教員採用試験に向けた取組の振り返り 来年度に向けての方策 春季休業期間の学習 レポート試験

全学共通・教養科目

科目コード	14003		区分	教養科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	キャリアデザインⅡ		担当者名	森 利治			○		
配当年次	3	配当学期	後期	単位数	1	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

このキャリアデザインⅡ（公務員）は体育学科、教育経営学科、こども発達学科、現代経営学科に在籍している公務員就職を希望する学生対象の講義である。このクラスでは公務員就職を希望し、公僕として働くことの意義を実際に各種公務員として働くためにどんな職種があるのか、それはどのような業務をするのかを知ることとなりたい職種を前期で絞ったうえで、警察官、消防士、自衛官、市役所、県庁職員など実際現場で活躍されている方などをお招きして実際の業務を生講義していただき、学生が調べてきたことと実際の相違を学び、4年生から始まる本試験に向けて仕事の意味を理解した上で試験に臨んでいくことを目的とする。

<授業の到達目標>

1. 公務員採用試験に合格するために、キャリアデザインⅠで取り組んだ自己分析をもとに集団面接形式での実践演習を行い、実際の面接試験に向けての動機付けになるようにする。2. 各職種で活躍されている外部講師の方からの講話、合格を勝ち取った先輩方の体験談を聴いて、自分の進みたい道に対する覚悟を決め受験に対するモチベーションを高める。

<授業の方法>

講義、講演会、論文対策、模擬面接などの形式で実施する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：模擬面接や論文課題をする際に、事前に課題を与え個別に調べさせ所定用紙に準備させる（1時間程度）。復習：講演会の場合は振り返りレポートを提出させる（30分程度）。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この授業は、教養科目のディプロマポリシー6（自律や社会性等に関する態度・指向性）と関連付けられている。3年次後期に仕事についての意義を学び、4年次に本試験に合格できることを目的とする。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

期末試験70%、単元別レポート15%、授業に取り組む姿勢15%

<教科書>

特に指定しない

<参考書>

特に指定しない

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	後期の目標を設定する	志望先を考える。勉強と部活動、アルバイトなどとのバランスについてスケジュールを立てる。
2	実践演習（1）	面接試験について（集団面接①）
3	講話「現場が求める人材」（1）	消防士の仕事内容（1）
4	実践演習（2）	面接試験について（集団面接②）
5	講話「現場が求める人材」（2）	地方の警察官の仕事内容について
6	合格の秘訣を探る（1）	公務員試験合格者の体験談（1）
7	実践演習（3）	面接試験について（集団面接③）
8	講話「現場が求める人材」（3）	刑務官の仕事内容について
9	合格の秘訣を探る（2）	公務員試験合格者の体験談（2）
10	講話「現場が求める人材」（4）	県職員の仕事内容について
11	合格の秘訣を探る（3）	公務員試験合格者の体験談（3）
12	講話「現場が求める人材」（5）	自衛官の仕事内容について
13	講話「学長講話」	本試験まであと三か月、追い込み時期を乗り切るために学長先生から学生にメッセージをいただく。
14	講話「現場が求める人材」（6）	市職員の仕事内容について
15	講話「現場が求める人材」（7）	消防士の仕事内容について（2）

全学共通・教養科目

科目コード	14003		区分	教養科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	キャリアデザインⅡ		担当者名	檜寄 日佳			○		
配当年次	3	配当学期	後期	単位数	1	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

このキャリアデザインは、子ども発達学科に在籍している幼稚園・保育園・こども園への就職を希望する学生対象である。このクラスでは、保育職を選択し働くことの意義や自己理解を深める中で、保育職に進むために必要な資質や能力を養い、将来の生き方について考えさせるとともに、保育職採用試験合格を目指して、論作文、面接、実技試験などの実際について指導を行う。

<授業の到達目標>

1 保育職を選択した意志を明確にし、保育職に進むために必要な資質や能力を高める。2 自己理解を深め、将来の生き方について考える。3 保育職採用試験合格を目指し、論作文、面接、実技試験などの技術を高める。

<授業の方法>

・講話を通して、課題の提示や説明・課題についてのグループワーク・課題についての演習

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

・予習：学習予定表に沿って、次回の内容に関する関連資料や課題を読み、授業の準備をする。（30分程度）・復習：各回の講座の内容について、個人またはグループで復習をし、講義ごとのワークシートの追加記入や復習をする。（60分程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は本学の教育目標「豊かな人間性と個性を有した実践力のある実践的職業人・国際人の育成」と関連している。教養科目ディプロマポリシー6（自律や社会性に関する態度・指向性）と7（生涯にわたり学び続ける態度・指向性）に対応している。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

・学習態度15%、グループ貢献度15%、課題提出30%、小テスト40%・提出物は期限厳守のこと

<教科書>

特に指定しない

<参考書>

特に指定しない

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	授業の目的・意義・概要
2	論作文（1）	論作文の書き方と演習（1）
3	自己分析（1）	自己分析シートを活用した自身の強みの発見
4	論作文（2）	論作文の書き方と演習（2）
5	先輩の合格体験	4年生幼保大志会、私立幼稚園・保育園・認定こども園、施設職員の合格体験談
6	個人面接・集団面接（1）	面接の形と特徴、立居振舞、言葉遣い
7	個人面接・集団面接（2）	先輩による模擬面接、面接演習（1）
8	個人面接・集団面接（3）	面接演習（2）
9	個人面接・集団面接（4）	面接演習（3）
10	個人面接・集団面接（5）	面接演習（4）
11	保育実技（1）	資料の活用と教材の選び方
12	保育実技（2）	リズム遊び・集団遊び
13	保育職の就活マナーと計画	公立保育職の募集要項の見方・探し方と合格まで、私立幼稚園・保育所・認定こども園・施設の就職マナーと合格まで、検索演習
14	理事長講話	教員養成におけるIPUの強み
15	後期キャリアデザインの振り返り、成果と課題	前期のまとめと今後の課題

全学共通・教養科目

科目コード	14003		区分	教養科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	キャリアデザインⅡ		担当者名	宮本 彩			○		
配当年次	3	配当学期	後期	単位数	1	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

卒業後の進路を実りあるものにするためには、計画的にキャリアプランを立て、早期から準備に取り組む必要がある。進路別就職活動のスケジュールを理解するとともに、実際の現場で求められている柔道整復師のスキルやモラルを理解し、身に付けることを学修成果として求めます。

<授業の到達目標>

柔道整復師に求められる職業倫理及び、社会保障制度について学び、柔道整復師の役割を理解し、自身の目指すべき方向性を明確にする。柔道整復師の職務と誇りを育むとともに、ビジネスマナー、自己分析力、業界に対する知識を身に付ける。

<授業の方法>

必要に応じて、ゲストスピーカーをお招きして講義を進める（オンライン形式も含む）。資料の配布等はGoogle Classroomを活用する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：事前に連絡した内容を予習して授業に臨む（毎回1時間程度）復習：講話後はレポートを提出し、柔道整復師の理解を深める。（毎回1時間程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目はディプロマポリシー6（自律や社会性等に関する態度・指向性）と7（生涯にわたり学び続ける態度・指向性）関連付けられています。単に知識を習得・活用するだけでなく、これからの社会に対して柔道整復師がどのように活躍できるか考え、学生一人一人が社会に貢献できる柔道整復師像を確立できることを目指しています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業意欲・態度：20%授業中の意見交換：30%授業課題・レポート提出：50%

<教科書>

なし

<参考書>

なし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	キャリアプランの設計①	前期授業および夏季休暇の省察就職活動に向けたキャリアプランの設計
2	職業倫理及び関係法規①	健康保険制度の概要および不正請求について
3	職業倫理及び関係法規②	業務におけるリスクマネジメント
4	社会保障制度①	関連企業講話「社会保障費から読み解く本邦の社会保障制度」
5	社会保障制度②	関連企業講話「少子高齢化が進む日本で接骨院が果たすべき役割」
6	社会保障制度③	関連企業講話「老齢年金を始めとした各種年金制度の概要」
7	社会保障制度④	関連企業講話「障がい者への福祉サービスを始めた社会福祉」
8	社会保障制度⑤	企業関連講話⑤「公的扶助（生活保護）制度」
9	グループ討議①	競技スポーツ分野で柔道整復師が活躍する方策を考える
10	グループ討議②	医療分野で柔道整復師が活躍する方策を考える
11	グループ討議③	介護・福祉分野で柔道整復師が活躍する方策を考える
12	就職セミナー①	企業数社が集まる就職セミナーに参加し、興味のある企業の説明を聞く。
13	就職セミナー②	企業数社が集まる就職セミナーに参加し、興味のある企業の方と面談する。
14	キャリアプランの設計②	春季休暇ならびに来年度の就職活動に向けたプランを設計する
15	キャリアプランの設計③	自分自身のキャリアプランを他者と共有する

全学共通・教養科目

科目コード	14003		区分	教養科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	キャリアデザインⅡ		担当者名	大平 真紀子			○		
配当年次	3	配当学期	後期	単位数	1	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

卒業後の人生を爽りあるものにするためには、きちんとしたキャリアプランを立て、早期から準備に取り組む必要がある。本科目では、前期は進路別の就職活動の基本的スケジュールを理解するとともに、自己理解、職業・仕事の理解を通じ自身の目指すべき方向性を明確にする。後期は、就職活動に必要なビジネスマナー、自己分析、業界研究、面接対策等について実践的に学習していく。

<授業の到達目標>

卒業後の進路を選択し、選択した進路に進むために必要な資質や考え方、能力を獲得する。

<授業の方法>

講義と演習を組み合わせて実施する。業界・企業研究に関連する授業回で、グループワークを行う。面接対策に関連する授業回で、プレゼンテーションに類するものを行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習（各回60分程度）：課題の指定された部分を通読したうえで、分からない言葉を調べる。|復習（各回80分程度）：授業で学んだことを踏まえて、自身のキャリアについて考えたり、進路決定に向けた準備を進めたりする。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

進路選択を取り巻く諸相やそれらにかかわる不確実性を理解したうえで、自律的な意思決定とそれにもとづく個人行動を取れるようになることを目指すものである（教養科目DP6）。グローバル化・情報化による多様な環境変化の下、高い倫理観と豊かな教養力で問題解決に向けチームワークを構築する力を身に付ける科目である（教養科目DP7）。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

参加態度・学習意欲30%、講義内での課題60%、最終レポート10%。|課題に対するフィードバックは講義内で、最終レポートについてはUNIVERSAL PASSPORTで行う。

<教科書>

特に指定しない

<参考書>

久保田学（2018）

「留学生のための就職内定ワークブック」日本能率協会マネジメントセンターグエン・テュアン・ズオン（2018）「ベトナム人が日本企業に就職するための心得」日本ベンチャー大学パブリッシング

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	前期振り返り	前期の振り返りと後期の授業概要 インターンシップや業界・企業研究などの成果の共有
2	就職活動におけるマナー（1）	基本的な身だしなみ
3	就職活動におけるマナー（2）	敬語、電話・メールの日本語表現
4	インターネットを活用した就職活動の展開	就活サイトの活用法、各種データベースの利用方法
5	企業を知る（3）	個別企業の事例に基づく企業理解（外部講師予定）
6	業界・企業を選ぶ	業界・企業選びの方向性
7	履歴書とエントリーシート	書類提出の意味、基本的な書き方・注意点
8	日本の税制と福利厚生	給与と福利厚生、所得税
9	自己分析	自分の「これまで」と「これから」を改めて見つめ直す
10	自分のことを他人に伝える	自己PRのための日本語表現
11	面接対策（1）	基本的な手順、よく聞かれる質問
12	面接対策（2）	面接のロールプレイング [基本編]
13	面接対策（3）	面接のロールプレイング [応用編]
14	在留資格について	「特定活動」資格の説明
15	まとめ	全体の総括と補足説明

科目コード	14003		区分	教養			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	キャリアデザインII		担当者名	佐藤 典子			○		
配当年次	3	配当学期	後期	単位数	1	授業方法	講義	卒業要件	必須

<授業の概要>

「折れない、やめないIPU生」の育成をしつつ、就職支援も強力に推し進めるために、キャリアデザインIIは、就活能力や社会人としての基礎能力向上につながる授業とする。再履修者は就活のタイミングと重なることから、全面オンデマンド授業としスケジュールを組みやすく、自主勉強が進展するような構成になっている。

<授業の到達目標>

ビジネスマナーや時事問題を学ぶことを通して、自分が社会で活躍できる姿をイメージできるようになる。

<授業の方法>

グーグルクラスルームに毎回動画と課題がアップしてある。全面オンデマンド授業で締め切りまでに課題を提出することで出席とする。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

前出のとおり全面課題提出となるが、授業履修と同様かそれ以上の学習時間を要するような課題を設定する。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本学の教育目標である「豊かな人間性と個性を有した実践力のある専門的職業人材・国際人の育成」と関連している。また教養科目ディプロマポリシー⑥自立した社会性に関する態度・指向性、⑦生涯にわたり学び続ける態度・指向性と関連している。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

参加意欲・態度60%（課題提出）に加え、テスト課題の採点40% フィードバックについては、グーグルクラスルーム上で各自へ実施する。

<教科書>

特に指定しない

<参考書>

特に指定しない

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	キャリアデザインIIを履修することに関する重要な項目理解する。
2	ビジネスマナー	ビジネスマナー検定3級の問題を解いて、実務的な力を強化する。
3	時事問題 ①	SDGsとは、働き方改革とはについて学ぶ。
4	お薦めの図書	本を読んでレビューを書くことで読解力と文章力を高める。
5	時事問題 ②	ダイバーシティや地球温暖化について学ぶ。
6	卒業後のライフプラン	人生全体のプランを参考資料を見ながら立ててみる。
7	時事問題 ③	AIや5Gについての知識を高める。
8	早期離職を防ぐには	早期離職を自分の問題としてとらえることで、それを未然に防止できるような内省をする。
9	時事問題 ④	パラリンピックなどについての知識を深める。
10	自分の未来	仕事で実現したいことについて考えて、具体的な行動へつなげる。
11	時事問題 ⑤	税金の役割や年金の仕組みについて学ぶ。
12	卒業後のお金	初任給から天引きされる税金などについて学ぶ。
13	時事問題 ⑥	ハラスメントやジェンダーの問題について学ぶ。
14	後輩へのメッセージ	これから進路に向けて動き出す3年生へ動画メッセージを作成する。
15	総括	後期授業を振り返り、最も学習効果が高かったものを考察して今後へ活かす。

科目コード	14001		区分	教養科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	キャリアサポート		担当者名	佐藤 典子			○		
配当年次	4	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本授業は就職活動と就職後に必要となる社会人基礎力の中から自己管理能力や対人スキルについての意識付けをして、それらのスキルを高めることを目的とする。特にコミュニケーション能力を伸ばすためにコーチングのスキルの実習をして、傾聴力や質問力を高める。

<授業の到達目標>

ピアコーチングをすることで自己分析や自己発見につなげ、傾聴や質問のスキルを伸ばすことでコミュニケーション能力を上げる。当初にこれらのコンピテンシーを自己・他者採点し、前期終了時にも同様な採点をして到達度を可視化する。

<授業の方法>

講義、ディスカッション、コーチング・デモンストレーションの観察、コーチング実践ワーク、3人一組でのオブザーバーを入れた実践ワーク、グループ演習など。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

該当テーマについてテキストを事前に読み、授業での実践に向けて準備する。授業と授業の間に2人一組でコーチングを1回（片道30分・合計1時間）実施し、学んだスキルを復習する。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本学の教育目標である「豊かな人間性と個性を有した実践力のある専門的職業人・国際人の育成」と関連している。また教養科目ディプロマポリシーである⑥「自立や社会性に関する態度・指向性」、⑦「生涯にわたり学び続ける態度・指導性」と関連している。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度と意欲 60%、課題の提出20%、最終的なスキルの進捗度合い20%とする。フィードバックについては、グループクラスルーム上で教員がコメントを記入して各自に返却する。また、スキルの習熟度のフィードバックについては、授業で演習中に直接フィードバックを実施する。

<教科書>

CTIジャパン

マンガでやさしくわかるコーチング

日本能率協会マネジメントセンター

<参考書>

CTIジャパン

コーチングバイブル東洋経済新報社

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	授業概要、評価方法、チーム作りのための演習
2	コーチングとは	コーチングの特性理解、事前アセスメントの実施
3	自己分析	MBTIなどを使ったパーソナリティ分析
4	コーチングの基礎スキル①	傾聴の効用を理解する
5	コーチングの基礎スキル②	基礎スキルを演習を通して体得する
6	コーチングの基礎スキル③	質問とGROWモデル
7	コーチング基礎スキル④	傾聴、質問、GROWモデルの理解と演習
8	中間の振り返り	講義と演習
9	リーダーシップ理論	リーダーとマネジャーの違い、コーチ型マネジャーとは
10	コーチング実践	基礎スキルやモデルの習得
11	リレーコーチング	グループでのコーチング演習
12	コーチング実践の発表	習得したスキルや考え方をどう実践しているか発表
13	コーチング技術の診断（1）	習熟度の診断とフィードバック
14	コーチング技術の診断（2）	習熟度の診断とフィードバック
15	まとめ	総括と事後アセスメント

科目コード	14001		区分	教養科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	キャリアサポート		担当者名	千葉 照久			○		
配当年次	4	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

この授業の目的は、キャリアデザイン等で学んだ教師としての基礎知識をもとに、教員採用試験合格に向け、より実践的な資質・能力を身につけることである。その目的を達成するために、教員採用試験に向けた心構えや具体的な攻略法について講義・演習を中心に、より実践に即した形で指導する。学習成果については、論理的思考力、表現力、協働性、教職への熱意などについて評価する。

<授業の到達目標>

・教師としての基礎知識や学校現場の抱える課題を理解することができる。|・教員採用試験の傾向と対策を理解し、志望する自治体に応じた面接、論作文、模擬授業等の実践力| を高めることができる。|・教師のやりがい、心構え等を理解し、自らの理想とする教師像を明確にすることができる。

<授業の方法>

・講話を通して、課題の提示や説明 ・課題についてのグループ協議|・課題についての演習 ・レポートの提出

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

・学習予定表に沿った内容に対して、課題意識をもたせる。（予習）|・各回の講座の内容について、個人またはグループでの話し合いの中で、自分の考えを深めることが| できるようにする。|・学んだ事を通し自分の考えをレポートとしてまとめることができる。（復習：30分程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、教養科目ディプロマポリシー⑦、⑧と関連付けられている。「高い専門性と実践力のある教師」を育成するための教養科目であり、教員採用試験を間近に控える4年生を対象として、高い倫理観と規範意識、自己コントロール力、教師としての職責を果たそうとする真摯な姿勢(DP6)、子どもの未来に対する強い使命感と責任感を持ち、教師としての成長をめざした生涯学習力(DP7)を育成する科目である。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲 20% 受講態度 20% 講義内での課題等 20% 最終レポート 40%

<教科書>

特に指定しない

<参考書>

特に指定しない

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	キャリアサポートとは 学習のルール・予定	キャリアサポートの概要と試験までの過ごし方 立ち振る舞い 服装とあいさつ 学習進行表の活用 対策講座等の予定(ノートの活用)
2	教員採用試験の事務手続き	募集要項の取り寄せ方 提出書類の記入方法 願書、履歴書の記入内容の確認
3	学長講話	進路に向けてのメッセージ
4	自己アピールの仕方 学習進行表	自己アピールの仕方 グループで自己アピール演習 学習進行表を基にした情報交換
5	教育現場の課題1 「主体的・対話的で深い学び」	グループに分かれて集団討論
6	教育現場の課題2 「ICT教育への取り組み」	グループに分かれて集団討論
7	教育現場の課題3 「インクルーシブ教育」	グループに分かれて集団討論
8	受験に際しての心構え 個人面接の攻略法	一次試験(二次試験)に臨む心構え 聞き手を意識した回答の仕方 IPUに関する質問への回答の仕方
9	個人・集団面接の攻略法	個人・集団面接の回答の仕方 自分の考えをわかりやすく伝える手立て
10	集団討論等の攻略法	集団討論・グループ活動の実施形態 複数の受験者との討論の進め方 課されるテーマの過去問の分析 ※形態によって自治体別に分かれる
11	模擬授業の攻略法	模擬授業の概要 先輩の模擬授業(VTR視聴) 学習指導案の書き方と模擬授業の実際
12	実践に即した面接演習(1)	夏期対策講座について 面接の評価の観点を意識した面接の仕方 上手な展開の仕方
13	実践に即した場面指導演習	場面指導の実際 現場に起こりうる場面での対処法
14	実践に即した面接演習(2)	授業に関する面接対策を中心に
15	レポート	900字 60分 課題「学んだことをどのように教職に役立てるか」

全学共通・教養科目

科目コード	14001		区分	教養科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	キャリアサポート		担当者名	横内 浩平			○		
配当年次	4	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

公務員を目指す学生がキャリア（職業人生）を考えていくには、さまざまな出題科目について十分理解しておく必要がある。この講義では、今年度の公務員試験に必要な知識のうち、次の内容を身に付けることを目的とする。1. 点数を伸ばすために必要な「数学」2. 直前期に必要な「問題演習」3. 二次試験対策のうち主に「集団討論」「集団面接」

<授業の到達目標>

1. 公務員への理解を深め、公務員として働くことの意義を認識することができるようになる。2. 採用試験における「頻出分野」の理解ができるようになる。3. 今年度の公務員試験に必要な知識を養成し、採用に向けての準備を怠らない習慣を身に付けている。

<授業の方法>

1. 講義（配布プリントを使用し授業、問題演習を進める）2. 振り返り（授業の内容に関するまとめ）※授業の一部についてはインターネット上のサイトを活用して解説します。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：翌週の授業内容に関するキーワードの下調べ（30分程度）復習：次回講義までに、該当する問題を解けるようにしておく（90分以上）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この授業は、教養科目のディプロマポリシー7（生涯にわたり学び続ける態度・指向性）と関連付けられている。3年次より始まっている「公務員対策講座」で基礎学力を身につけた4年生に対し、今年度の公務員試験に向けて学力伸ばすことを目的としている。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

定期試験の結果 70% 授業に臨む態度等30%

<教科書>

特に指定なし

<参考書>

特に指定なし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	履修ガイダンス	講義の進め方について説明する。
2	数学 (1)	数と式
3	数学 (2)	二次関数
4	数学 (3)	二次方程式
5	数学 (4)	その他の方程式
6	数学 (5)	図形と方程式
7	問題演習 (1)	政治
8	問題演習 (2)	経済
9	問題演習 (3)	生物
10	問題演習 (4)	地学
11	問題演習 (5)	判断推理・数的推理
12	二次試験対策 (1)	集団討論・集団面接等 (1)
13	二次試験対策 (2)	集団討論・集団面接等 (2)
14	二次試験対策 (3)	集団討論・集団面接等 (3)
15	まとめ	重要事項の確認・試験の注意など

全学共通・教養科目

科目コード	14001		区分	教養科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	キャリアサポート		担当者名	檜 日佳			○		
配当年次	4	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

幼稚園、保育所、認定こども園、施設において保育職を志望する学生を対象とした選択科目である。この講義では保育者としての基礎知識と採用試験合格に向けた具体的な指導をする。

<授業の到達目標>

1 保育者としての資質や能力を高めることで、保育者として働くことへ意思を明確にする。2 保育職に進むために必要な論文、面接、実技試験などの技術を高め、志望する自治体や法人に合格する。

<授業の方法>

- ・講話を通して、課題の提示や説明・課題についてのグループワーク・課題についての演習

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

・予習：学習予定表に沿って、次回の内容に関する関連資料や課題を読み、授業の準備をする。（30分程度）・復習：各回の講座の内容について、個人またはグループで復習をし、講義ごとのワークシートの追加記入や復習をする。（60分程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は本学の教育目標「豊かな人間性と個性を有した実践力のある実践的職業人・国際人の育成」と関連している。教養科目ディプロマポリシー7（生涯にわたり学び続ける態度・指向性）と8（総合的な学習経験と創造的な思考力）に対応している。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習態度15%、授業課題30%、グループ貢献度15%、小テスト40%

<教科書>

特に指定しない

<参考書>

特に指定しない

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	授業の目的とその概要について
2	採用試験までの計画	受験自治体・志望法人調べと合格までの計画
3	採用試験の事務手続き（1）	基本的な願書の書き方の講義と演習
4	採用試験の事務手続き（2）	自治体・法人ごとの願書様式と書き方のポイント
5	個人面接、集団面接（1）	面接マナーの復習と面接ノートの作成
6	個人面接、集団面接（2）	「自分を知ってもらうための面接」グループ演習
7	個人面接、集団面接（3）	「保育の専門性を問われる面接」グループ演習
8	保育者・施設職員のやりがいと合格体験記(1)	先輩保育士の講話（卒業生公立園先輩）
9	保育者・施設職員のやりがいと合格体験記(2)	先輩保育士の講話（卒業生私立園先輩）
10	保育者・施設職員のやりがいと合格体験記(3)	先輩保育士の講話（卒業生福祉施設の先輩）
11	論作文（1）	自治体・法人別出題されやすい課題の分析と演習
12	保育実技	自治体・法人別出題されやすい実技テーマの分析と演習
13	論作文（2）	保育の今日的課題の分析と演習
14	集団討論	集団討論とは、グループ演習
15	学びのまとめ	学びのまとめと今後の課題、就職までの準備

全学共通・教養科目

科目コード	14001		区分	教養科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	キャリアサポート		担当者名	大平 真紀子			○		
配当年次	4	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本科目では、キャリアデザインで取り組んだ内容をもとに、日本の会社で働くために必要な資質、知識やマナーをさらに向上させることを目指す。日本で就労するためには日本人の考え方、国との働き方の違い、法規に関する問題などを知り、日本社会の中で共生していく必要がある。そのための知識の養成や心構えについて学ぶ。

<授業の到達目標>

卒業後の進路を選択し、選択した進路に進むために必要な資質や考え方、能力を獲得する。 ※留学生が卒業後に「特定活動」の在留資格を得るためには、本科目の単位を修得する必要があるので留意すること。

<授業の方法>

講義と演習を組み合わせて実施する。面接対策に関連する授業回で、プレゼンテーションに類するものを行う。提出物はGoogle Classroomを用いて提出することもある。

<準備学習等（予習・復習）> ※具体的な内容及びそれに必要な時間等

前回講義で学習した内容を見直して復習し、授業終了時に示す内容等を予習する。（予習・復習とも30分程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

卒業後の進路選択という一時点での意思決定に向き合うことだけに留まるのではなく、生涯を通じたキャリアの発達や 開発を自律的に行うための態度や考え方を身につけることを目指すものである。主体性・積極性を持って学習し、グローバルな課題解決の一端を担い、国際社会に貢献し、同時に生涯学習力や統合的な経験と創造的思考力を身に付ける科目である（教養科目DP7、8）。

<成績評価方法> ※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

参加態度・学習意欲30%、講義内での課題 60%、最終レポート10%。課題に対するフィードバックは講義内で、最終レポートについてはUNIVERSAL PASSPORTで行う。

<教科書>

特に指定しない

<参考書>

特に指定しない

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	授業概要と評価方法に関する説明
2	就職活動の中間報告	各自の就職活動の「これまで」と「これから」
3	キャリアについて考える	内的キャリアと外的キャリア、キャリア・アンカー
4	自己分析 (1)	人生曲線、自分史
5	自己分析 (2)	自己PRのための日本語表現
6	業界・企業研究 (1)	業界・企業を捉える多様な視点、情報収集の方法
7	業界・企業研究 (2)	選択肢を広げるための業界・企業研究
8	自己分析 (3)	業界・企業選択に向けた価値観の模索
9	業界・企業研究 (3)	価値観にもとづく業界・企業選択
10	書類の作成	読み手に伝わる日本語表現とは
11	就職活動におけるマナー	身だしなみ、電話・メール・対面での日本語表現
12	面接対策 (1)	基本的な手順、聞かれる質問
13	面接対策 (2)	個人面接のロールプレイング
14	面接対策 (3)	集団面接のロールプレイング
15	まとめ	就職活動の総括とこれからの学びに向けて